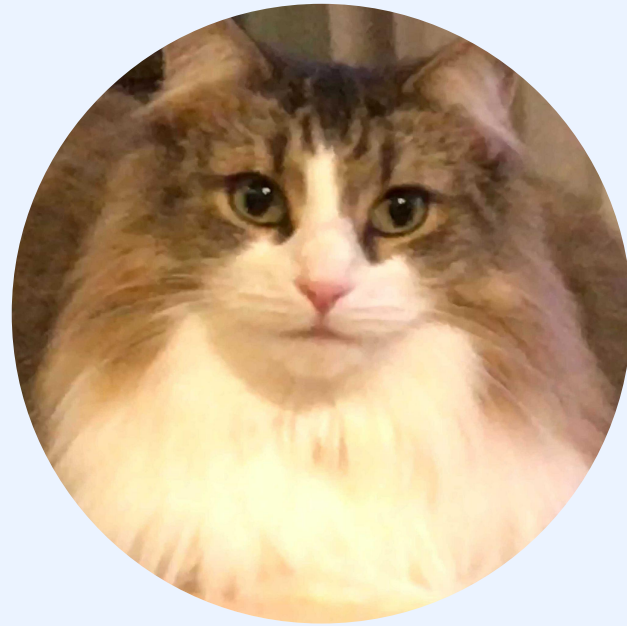




QAでE2Eテストを普及させるには？

2023.03.09



QAエンジニア

田中龍一

ryuichi tanaka

- 21卒エンジニアとしてfreee入社した
- 入社後にQA部に配属された
- 基盤チームでQAをしつつ、1年強E2Eテストの作成や保守を行っていた
- 現在は会計チームでQA活動中

概要

- 自分が所属しているQAチームでE2E勉強会を行い、チームメンバーによるE2Eテストシナリオ作成や修正が行われるようになった

→勉強会を実施するにあたって工夫したことを紹介する

活動の背景

- テスト自動化チームにより、一通りシナリオの作成・保守が行われていた
- しかし現状QAメンバーによる作成・保守はあまりできていない

→まずはQAチームでシナリオ作成をできるようにしていこう！

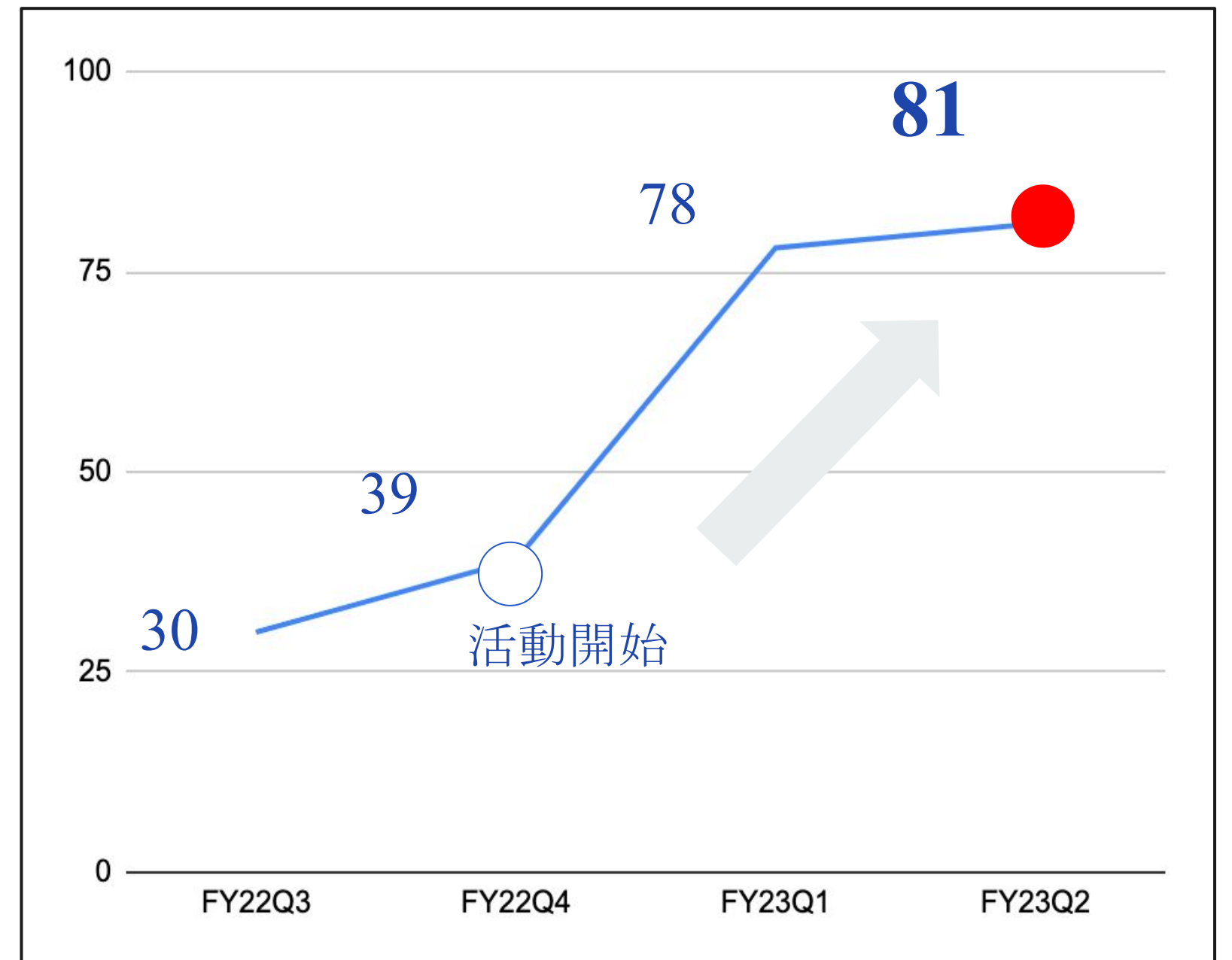
成果(1)

- 勉強会開催
 - 参加者は合計12人
 - 何をしたいツールなのかの説明からPullRequestのレビュー方法の説明まで行った
- 勉強会後の開発合宿ではE2Eテストを実装するチームが生まれた
- コーディングに興味を持ってくれる人が増えた
 - コードを反映させるための流れの理解に繋がった
 - CLI慣れにも繋がった

成果(2)

- QAチームメンバーが作成したPRのmerge数が2倍以上に増加した
 - 累積ではなく新規merge数

QAチームメンバーのPRmerge数の推移



工夫したこと(1)

- 参加メンバーを第一陣、第二陣に分けた
 - 前提知識があり勉強会をスムーズに進められ、積極的にフィードバックをくれる社員メンバーを第一陣とした
 - 勉強会資料を改善しながら進め、よくなったやり方で第二陣のメンバーに広げた

→スタートが早くなる、よくなった資料で第二陣を進められる

工夫したこと(2)

- 自動テストなんでも相談所を週一で開いた
 - わからなければわからないほど質問がしづらい
 - 文面で質問することも難しくなる
 - 人が見ているところで分からないというのも大変だと思う

→質問がある人だけが来る場を週一で1時間ほど提供し、2ヶ月程度盛況した

工夫したこと(3)

- 勉強会を行うメンバーが同じ会計QAのメンバーであること
 - 毎週1時間程度顔を合わせているメンバーであり、お互いが担当しているプロダクトのことを知っている
 - 質問がしやすい
 - プロダクトの特徴を知った上でアドバイスができる

まとめ

- 人数が多い時は勉強会を複数回に分け、ブラッシュアップしながら進める
- クローズドな相談場所を作る
- 普及を行いたいチームのメンバーが普及役をやる

今後の展望

- E2Eテストによって担保できている機能を増やす
- 落ちにくいテストを書けるようになっていく

